

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970102521		
法人名	社団医療法人 依田会		
事業所名	グループホーム さくらがおか		
所在地	栃木県 宇都宮市 桜2-3-3	電話:	028-623-6899
自己評価作成日	平成30年 5月31日	評価結果市町村受理日	平成30年 8月 6日

## ※事業所の基本情報は

基本情報	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成30年 6月21日	評価確定(合意)日	平成30年 7月 3日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療機関なのでご利用者様やご家族様が安心して生活が送れる。季節にあったイベントや外出などを毎月実施している。近隣の幼稚園や小学校とお餅つきや、流しそうめん、秋祭り、小学生とは認知症についての理解を深めるための学習の時間を持った。地区の文化祭の参加、ダンスボランティアやオカリナボランティア、マジックボランティアの方々にも来て頂いている。またケアマネージャーの会議の場所として1階フロアを開放している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年開設で4階建て3ユニットの事業所です。「ふれあい」「対話」「やさしさ」をキーワードにした理念の日々共有と実践に取り組んでおり、家族同様に接してくれる、自立を促しながら面倒見てくれる、手作りの家庭料理が美味しいなどの声が家族から聞かれています。近所の公園の定期清掃や地区の文化祭への出品など利用所と一緒に参加し地域の住民との交流の機会としている。オカリナやダンス他のボランティアの来所、近所の幼稚園児との交流は利用者の楽しみに繋がっている。運営推進会議は定期開催されており人材不足対策としてシルバー人材の活用や花だよりの情報提供などが、各委員より得られるなど双方向の会議となっている。年2回の避難訓練では例年の非常階段を使つての訓練や今年は西消防署の協力を得て煙道体験を利用者と共に行い、煙の怖さを再認識することが出来た。隣接の法人クリニックでの健診や看護師の定期訪問による健康管理は本人・家族の安心に繋がっている。今後も地域の医療・介護の拠点としての活躍が期待されている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) (3階ユニット) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて毎日「運営理念」を唱和している。また夕礼においても反省会をし、理念を共有する時間を設けている。	「ふれあい」「対話」「やさしさ」をキーワードにした理念を毎朝唱和し、更に支援の方向性を確認することで、3ユニット間の連携と共有に努めている。OJTを通してレベルアップに努めると共に、各フロア別の夕礼の引継ぎ時にはフロア長は当日の気づきがあれば事例として取り上げるなどして利用者との接し方を大切にした支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の公園掃除や、自治会の文化祭などの行事へ利用者、職員共に参加、交流している。	散歩コースでもある近所の公園の定期清掃への利用者の参加や自治会の文化祭への作品出品、職員と一緒に参加などは、地域住民との交流機会となっている。また、オカリナやダンスのボランティアを受け入れている。更に近所の幼稚園児をバーベキューへ招待したり、歌を披露してもらうなどの交流は利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の幼稚園などと交流があり関わりを通して認知症への理解をしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者も2～3名会議に参加している。行事の実績、予定の報告、今後の課題を意見交換している。	利用者、家族、自治会長、老人会会長、地域包括支援センター職員(2か所)が参加して定期開催されている。事業所より利用状況、活動などの報告の後、空き部屋対策として民生委員の活用や、人材不足対策としてシルバー人材の活用、更に外出の参考に各地の花だよりなど、各委員より意見、提案や情報提供が得られる双方向の会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	変更時は市役所に提出に行っている。	更新申請や各種書類の提出時には、高齢対策課など関連部署にも立ち寄り、事業所の状況説明をすると共に、情報収集にも努めている。さらに本年度は報酬改定の年でもあり、加算取得の条件や、提出書類の疑問点などは積極的に問い合わせ、アドバイスをしたり、地区のケアマネージャー会議に場所を提供するなど協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行ない職員は理解しており、身体拘束をしないケアを守れている。	報道されている事例なども参考に、日常のケアを振り返り、身体拘束に繋がる行為になっていないかなどを各フロアごとに話し合う機会を設けている。新たに「身体拘束適正化等に関する指針」を作成しており、年2回の定期的な教育・研修などを予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて虐待について学んでいる。また、日常の行動で虐待に繋がるケースは無いか、都度話し合っており、虐待の無い職場にしている。		

自己	外部	項目	自己評価（3階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の利用が無い事もあり、理解が不十分である。 今後学ぶ機会が必要だと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については管理者が家族に対して納得して頂くまで丁寧に説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望は都度話し合い可能な限り対応している。	家族来訪時にはフロアー長又は日勤者が暮らしぶりなどの近況報告を行い、意見要望などがあれば連絡ノートにて全員に伝え、迅速な対応に努めている。毎月「さくらだより」を発行し、リクレーションや外出行事などの暮らしぶりや、職員の異動など写真を多く取り入れた報告で喜ばれている。家族からは利用者個人のケアに関する要望が大半で、運営に関わる内容は少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の提案は話し合い速やかに改善を行なっている。	2階のフロアー長兼計画作成担当者でもある管理者は、各階を頻繁に巡回している。得られたケアの提案や意見の迅速な対応に努めており内容によっては全体カンファレンスに繋げている。外出行事や各階との交流お茶会などは各フロアー長及び職員の提案や意見が多く採り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員の教わり状況が見える化することにより、教える側と教わる側双方にやりがいを感じながらのケアに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合ったグループ内研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と寄り添い会話していく中で、不安や要望を感じ取り、より良い環境を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から不安、要望を聞き取り解決策を話し合う事で信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの聞き取りの中から優先順位を確認し、ケアを作っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人には、出来ることをお手伝いして頂くことで、家族同様の生活をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所の際には共に居る時間を大切にしている。また、近況報告も行ない共有化している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や外食など、ご家族の協力のもと出掛けている。	家族来訪時に馴染みの美容室に出かけたり、行きつけの店に外食に行くこともある。時には一時帰宅や外泊で旧交を温めるケースもある。たまにはかつての同僚の訪問もあり職員が間に入って話をつなぐケースもあり、いずれも暖かくお迎えし再来訪をお願いするなど、継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で関われるように、場面ごとに席を取っている。 また、1人にならないよう声掛けをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も他施設へ行き、本人や家族と会う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望には出来る範囲で答えている。 困難な場合には察する努力をしている。	今、何をしたいのか、何をして欲しいのかを問いかけているが、自らの言葉で表現できない人が増えている。日ごろより理念の実践として「ふれあい」「対話」している中や、家族から得られた情報などから、本人が最も関心を示すフレーズやタイミングでの声掛け、二者択一でのビジュアル表示など、本人本位の意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族よりお伺いし、分からないことを確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態により出来ることを取り入れ、生活していただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変更時は本人・家族と話し合い、本人に合ったケアプランを作成している。	6～12か月の見直しを原則としている。日々の状態変化(個別記録)やモニタリング、受診結果などを基本に全体カンファレンスと担当者会議を行っている。担当者会議には可能な限り本人、家族の参加(家族の都合優先)を求め、意見、要望を聴き現状に即した計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたケアを行ない記録をしている。気づきがある時は細かく記入し今後の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合った対策が出来るよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人に合った地域活動や外出に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医に受診している。 他科受診の際は家族のご協力を頂いている。	隣接の同法人クリニックでの2回/月の健診や看護師の定期訪問があるなどの安心からほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。受診結果や薬の変更などを電話や家族訪問時に書類で報告し、共有している。訪問歯科の受診者も8名いる。他科受診は原則家族対応でお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護時に体調を伝える事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には面会に行き、情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて、家族との話し合いを持ち、共有理解した上でケアをしている。	契約時に重要事項の説明と併せて看取り指針に基づき説明し、本人、家族の意向確認をしている。更に状態変化の都度、主治医、看護師の意見を参考に本人、家族と繰り返し話し合い、意向を再確認している。昨年度は2名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行なっている。緊急時は他職員、病院と連携を取り速やかな対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をしている。 避難方法の再確認が出来ている。	29年9月は2～4階の利用者を対象に非常階段からの避難誘導訓練、30年3月は消防署立ち合いで煙道体験を行っている。訓練の結果いずれも課題が多く避難誘導には多くの人手が必要で特に夜勤一人勤務時の対応が課題となっている。対応として各階共に火元の状況(周辺民家を含む)によりベランダへの誘導か、非常階段踊り場までの誘導かの何れかを選択し、救助を待つことにしている。	訓練結果の体験を直ちに全員に周知すると共に、早期に課題と対策を全員で話し合い臨機応変な対応に繋がることを期待します。前回からの課題である、消防到着までの5分間にすべきことは何か(特に夜間対応を中心に)の各階ごとのシンプルマニュアルの早期作成に期待します。併せて異動に伴う、職員連絡網の更新及び確認にも期待します。

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気をつけ、訪室やトイレ誘導時など、本人が傷つかない声掛けをしている。	声掛けは原則、姓にさん付けで行っているが、人によっては慣れ親しみ、反応の良い「ちゃん」付けの場合もある。身体ケアを行う前には、必ず、「これから○〇を行います」と声をかけて行っている。自主性を尊重して付かず離れずの見守りに徹し、過剰な手助けにならないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	したい事、行きたい所がある場合、すぐ出来ることは行なっている。 また、自己決定できるような声掛けを行なっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の望む場所で過ごして頂いている。行事がある時も無理強いはいしない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容など本人の希望も聞きながら行なっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・盛り付け・後片付けと、出来る事をして頂いている。 食事時は職員も交ざり、会話をしながら楽しく召し上がっていただいている。	献立作成、食材調達、調理を職員が交代で行っており、家庭の味で美味しいと利用者、家族からも好評を得ている。サラダのドレッシングなどは好みで選べるよう数種類準備している。下膳など利用者の出来ることは自発的活動の生活行為に繋げている。職員も会話を楽しみながら一緒に食べている。定期的に各階ごとのお好みランチを自由に選んで食べに行く交流ランチは楽しみと各階ごとの交流の機会としている。時には外食に出かける事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量に気をつけており、不足気味にならぬよう好きな物を提供し摂取していただいている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをしている。見守りが必要な方はその時の状態に合わせた口腔ケアをしている。			

自己	外部	項目	自己評価（3階ユニット）		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣を把握し少し早めに声掛けを行うことでトイレでの排泄に繋げている。	定時の声掛けと併せて各人のシグナル（立ち上がりやきよろきよろ、もじもじなど）を見落とさないようにして、早めの声掛けと誘導でトイレでの排泄に繋げている。パッドの交換頻度が高く、更に介助が必要な利用者も多く、介助を通じて最適なパッドの大きさの把握に努めるなどの支援を行っている。夜間は睡眠を優先しているが、時間での声掛けや起きてきたら誘導するなど各人に応じた対応に努めている。	尿漏れなどの失敗をより少なくするためにも、定時の支援のみでなく、排泄パターン表を活用し、個々人の状態により適した支援を期待します。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を含む食材や水分の提供を行なっている。 体操時に便秘対策の体操も取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については本人に声掛けし、希望の時間で入って頂けるよう調整している。	入浴の日時や回数は特に決めていないが、日勤帯の中で利用者の希望を優先している。当日のお風呂担当職員が体調やタイミングを見て、声掛けし、週2回以上の入浴に努めている。時には脱衣を嫌がる人もいるが、丁寧な対応で最終的には全員入浴を楽しんでいる。全介助者への対応は他の階へ応援を求め2人対応で安全確保に努めている。	全介助者が増える可能性は高く、個浴槽での職員2人対応は限界が想定されます。利用者の安心と職員の負担軽減の為に、3ユニットの内、1ユニットだけでも介護浴槽の導入が期待されます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の好む時間帯で午睡や休息を取り入れ、安眠できている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は説明を読み理解するようにしている。毎回飲み込みまで確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る家事活動を行なって頂いている。 外出等も実施し気分転換に繋げている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩に行っている。 家族との外出もお願いしている。	季節の花や行事見物にドライブを兼ねて出かけている。日常的にはその日の希望によって近所の公園や事業所周辺の散歩に誘い合わせて出かけたたり、職員が食材の買い物の際に一緒に行く機会もある。屋上庭園での外気浴や、花壇への水やりは気分転換にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている方もいる。 欲しい物がある時は買い物と一緒にいくときもある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話で話したり手紙でやり取りしている方もいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に配慮している。 トイレ等は気持ちよく使用して頂くために、使用後に毎回掃除を心掛けている。		各階共に同一の造りであり、建具や床の間など全体に和風のイメージを基調に、装飾品も少なめにして落ち着いた空間を演出している。利用者家族や職員差し入れの季節の花、手作りの日めくりなどで季節感を感じられるようにしている。居間、廊下、共に広く、車椅子や歩行器などの動線にも全く問題なく、清掃も行き届いている。各ユニット毎に畳の間が3ヶ所あり利用者同士の団欒や家族来所時の面談の場所にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では気の合った者同士での席にしている。 最近では中央畳コーナーに移り楽しく談話される姿もある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた布団などを使用して頂くことにより、安心して過ごせるように整備している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙で表示することにより、トイレ等の場所が分かり易くなっている。 居室も「のれんや戸の色分け」「表札」などがあり分かりやすくしている。			